

# 岩手大学三陸復興・地域創生フォーラム

## 岩手の“大地”と“ひと”と共に

岩手大学では東日本大震災後から被災した三陸沿岸地域の復旧・復興支援活動に全学一丸となって取り組んできました。平成28年4月には「三陸復興・地域創生推進機構」を設置し、復興活動から学び、地域創生に生かす取組みに着手し、釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営、災害公営住宅のコミュニティ再建支援、三陸ブランド野菜の栽培・販路開拓、平成28年8月に岩手県を直撃した台風10号への対応、地域創生型人材の育成など、地域貢献、人材養成そして学術の分野で幅広く成果を上げてきました。

一方、東日本大震災から10年が経過し、変化している地域ニーズへの対応や、これまでの活動成果をそれぞれの地域において自立的、持続的な実施や社会実装につなげるため、令和2年度に「地域創生モデル構築活動支援経費」を創設し、現在6課題が2か年S計画で三陸の復興と地域の持続的発展に向けて、これまでの活動成果を新たな「地域創生モデル」として構築し、提案するとともに、大学院総合科学研究科等に還元して「地域創生型人材」の育成を推進することを目指して活動しています。

現在実施中の6課題の活動がそれぞれの地域の未来を拓く新たな価値を共創していくことを目的に本フォーラムを開催します。

**日時** 令和3年10月29日（金）13時～17時

**会場** 盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）

（岩手大学理工学部内）（〒020-8551 盛岡市上田4丁目3-5）【参加費 無料】

**定員** 会場50名とオンライン100名 申込み締切10月21日（木）

詳しいご案内及びプログラムは下記ホームページ又は右のQRコードからご覧ください。  
研究支援・産学連携センターURL：<https://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/>



### 参加申込

右のQRコードから参加申込フォームに入力して頂くか、参加申込ホームページから、申込欄に参加する発表と、会場、web参加の別に○印を付け、参加者の①所属名、②職名、③氏名、④電話番号、⑤E-mail addressを明記の上、10月21日（木）までにE-mail: [ccrd-ad@iwate-u.ac.jp](mailto:ccrd-ad@iwate-u.ac.jp) 又はFAX:019-621-6892に申し込んでください。（定員に達し次第締め切りますので、早めにお申込みください）  
参加申込書 pdf 版 URL：<https://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/09/form-.pdf>

申込 QR コード



※当日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場参加の方はマスク着用と手洗い等の対策をお願いいたします。また、当日、発熱、風邪等の症状がみられる場合はご参加をご遠慮ください。新型コロナウイルス感染症の状況によっては変更や中止する場合がありますので、最新の情報はホームページでご確認ください。

主催 岩手大学研究支援・産学連携センター

お問い合わせ先 岩手大学研究支援・産学連携センター 担当：今井、小山

〒020-8551 岩手県盛岡市上田4-3-5 TEL:019-621-6490 FAX:019-621-6892 E-mail: [ccrd-ad@iwate-u.ac.jp](mailto:ccrd-ad@iwate-u.ac.jp)

# 岩手大学三陸復興・地域創生フォーラムプログラム

(令和3年10月29日 コラボMIU)

13:00 開会挨拶及び「復興支援から地域創生活動報告」

理事・副学長・研究支援・産学連携センター長 水野雅裕

13:30 地域創生モデル構築活動報告

## 【防災教育分野】

13:30-13:50 学校安全教育プログラム「岩手モデル」の構築と全世界への情報発信

教育学部 准教授 菊地洋、特命教授 麥倉哲

(活動の概要) 本グループは三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門「学習支援班」の活動を受け継ぎ、支援だけに終わらない実践モデルの構築と研究成果の発信を行っている。本活動では学校安全を遂行するための「科学の力」、「学校の力」、「地域の力」に着目し、釜石市、大槌町、盛岡市、県教育委員会と連携し、災害安全に重点を置く学校安全における教材(岩手モデル)を完成させ、各自治体(教育委員会)の教材化(社会実装)につなげるとともに、最終的には多言語化による世界への情報発信を目指している。

13:50-14:10 防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」を拠点とした地域防災教育の展開に関する実践的研究

地域防災研究センター 教授 福留邦洋

(活動の概要) 震災発災から10年が経過し、震災の記憶の風化や関心の希薄が懸念されていることを受け、今後、釜石での震災の教訓を伝える特徴ある取組みとともに、防災教育の普及活動を充実させるため、防災学習施設(いのちをつなぐ未来館)で行う震災伝承活動に関する中期目標等ロードマップの設定及び適正な評価方法、更には、その活動・運用に関わる人材の育成を行うことにより、大震災後の新しい地域防災教育モデルの構築を目指している。

14:10-14:30 【防災教育分野】質疑と意見交換

【14:30-14:40 休憩】

## 【心のケア及び地域コミュニティ分野】

14:40-15:00 被災地における心のサポートおよび継続的な支援基盤の構築を目的とした講演活動とカウンセリング

活動の実践

人文社会科学部 准教授 佐々木誠

(活動の概要) 本活動は三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門「心のケア班」の活動を踏まえ、震災復興におけるPTSDの遅発性への対応など長期的のサポートが必要とされる心理的支援について、2次予防の観点から地域全体(集団)を対象とする市民講座の開催と、トラウマ症状等を呈するハイリスク者(個人)を対象とするカウンセリング活動を行っている。本活動を通じて関係する相談機関とのネットワークが強化され、相互補完的な心理支援システムが社会実装されることを期待しており、次年度以降も人文社会科学部附属こころの相談センターと連携して継続実施していく予定である。

15:00-15:20 地域住民の主体性醸成による地域コミュニティ支援

人文社会科学部 教授 杭田俊之

研究支援・産学連携センター 特任助教 船戸義和

(活動の概要) 本活動は三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門「地域コミュニティ再建支援」の活動を踏まえ、災害公営住宅等の地域コミュニティ活性化を住民の主体性醸成に焦点を当てながら多角的視点で支援し、これまでコミュニティ活動に積極的ではなかった人たちが参加して、共助の実践者となるための仕組みを構築することを目指している。そのための新たな仕組みの一つとして「コミタス事業」を構想・企画し、実施・検証(社会実験)に取り組んでいる。

15:20-15:40 【心のケア及び地域コミュニティ分野】質疑と意見交換

15:40-15:50 休憩

## 【農林業分野】

15:50-16:10 農業者と大学人が交流するWebセミナーの仕組み作りとそれを活用した三陸地域の農業振興

農学部 准教授 松嶋卯月

(活動の概要) 本グループは三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門「園芸振興班」として三陸沿岸の気候を活かした夏イチゴやミニカリフラワーなどの新規作物の導入・普及、栽培、農産物の販売・物流、6次産業化に貢献してきた。この活動に対する農業者からの期待が高まりを踏まえ、若手農業者や新規就農者と大学の教員・学生との交流と学習の場として、オンラインで開催する仕組み(Web 農業セミナー)を構築、維持し、農業者への栽培技術や販売・物流情報の提供、農業者と実需者や研究者との交流を継続することを目指している。

16:10-16:30 いわたの漆産業の発展に資する生漆生産技術の高度化

農学部 教授 真坂一彦

(活動の概要) 岩手県が国産漆の一大産地として増産が期待されていることを踏まえ、農学部森林科学科では「ウルシの効率的・持続的生産システム並びにウルシ樹木の総合利用システムの開発」を学科として組織的に取り組むテーマの一つに取り上げている。その一環として本活動では自治体等と連携して、効率的な苗木生産、漆林の保全管理、漆採取技術、林業の複合経営モデルなど、技術と経営の両面から研究に取り組んでいる。今後も研究を継続実施するとともに、その成果を地域に還元し、国産漆の自給率向上と地域創生に貢献していく。

16:30-16:50 【農林業分野】質疑と意見交換

16:50-17:00 開会挨拶 研究・地域連携部長 早川浩之